

## ダクト用換気扇 (トイレ (小空間) 専用)

形名

VD-07ZC7

VD-08ZC7

### 取付工事説明書

### 販売店・工事店さま用










取付工事を始める前にこの説明書をよくお読みになり、正しく安全に取付けてください。

**別冊の「取扱説明書」はお客さま用です。必ずお渡しください。**

- 取付工事、壁穴工事はお買上げの販売店または専門の工事店さまが実施してください。
- 配線工事は電気工事士の方が実施してください。
- この製品はトイレ・洗面所・居間・事務所・店舗の天井に取付けてください。それ以外の用途には使用しないでください。故障の原因となります。
- この製品には市販の埋込みスイッチ、またはシステム部材のコントロールスイッチが必要です。その他屋外フード等は三菱電機換気送風機カタログより別途ご用意ください。
- 当社以外の電子式スイッチ（半導体制御による速調スイッチ・タイマー等）やホテルスイッチをご使用の場合は組合せ上、不具合の発生するおそれがありますので、ご使用の際はあらかじめ確認ください。
- 接続ダクトは外形寸法図に示すダクト径の鋼板管、アルミフレキシブルダクト、塩化ビニル管のいずれかをご用意ください。

## 安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

 <b>警告</b>	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの	 <b>注意</b>	誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの
 禁止	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ガス漏れに気付いたときは、換気扇のスイッチの一切をしない 爆発・引火の原因。</li> </ul>	 禁止	<ul style="list-style-type: none"> <li>●直接炎のあたるおそれのある場所や油煙・有機溶剤・可燃性ガスのある場所には取付けない 火災の原因。</li> </ul>
 水ぬれ禁止	<ul style="list-style-type: none"> <li>●製品を水につけたり、水をかけたりしない ショート・感電の原因。</li> </ul>	 浴室での使用禁止	<ul style="list-style-type: none"> <li>●浴室など湿気の多い場所には取付けない 感電・故障の原因。</li> </ul>
 分解禁止	<ul style="list-style-type: none"> <li>●改造や工具を必要とする分解はしない 火災・感電・けがの原因。</li> </ul>	 指示に従う	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に 落下によりけがの原因。</li> <li>●部品の取付けは確実に 落下によりけがの原因。</li> <li>●取付けの際は必ず手袋を着用する けがの原因。</li> <li>●配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に 接続不良や誤った配線工事は感電や火災の原因。</li> </ul>
 指示に従う	<ul style="list-style-type: none"> <li>●交流100Vを使用する 火災・感電の原因。</li> <li>●メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取付ける 漏電した場合発火の原因。</li> </ul>		

# 取付け前のお願い

## 取付け

- プラスチックボディタイプダクト用換気扇及びダクト用システム部材の使用については、地区により異なった規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁（特に消防署）にご相談ください。
- 高温（40℃以上）になるところに取付けしないでください。
- 効果的な換気を行うために給気口を設けてください。
- 傾斜天井には取付けしないでください。シャッター開閉不良、振動、異常音の原因となります。

## 天井・ダクト工事

- 天井板は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものをご使用ください。
- 排気ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外に向けて1/100以上の下りこう配をつけてください。
- 排気ダクトの先端には、鳥などの侵入を防ぐためのVENTキャップ、または雨水の浸入を防ぐための深形フード、外風が強いところでは耐外風フードなどのシステム部材を取付けてください。
- 次のようなダクト工事はしないでください。（風量低下や異常音発生の原因となります）

● 極端な曲げ



● 多数の曲げ



● 吐出口のすぐそばでの曲げ

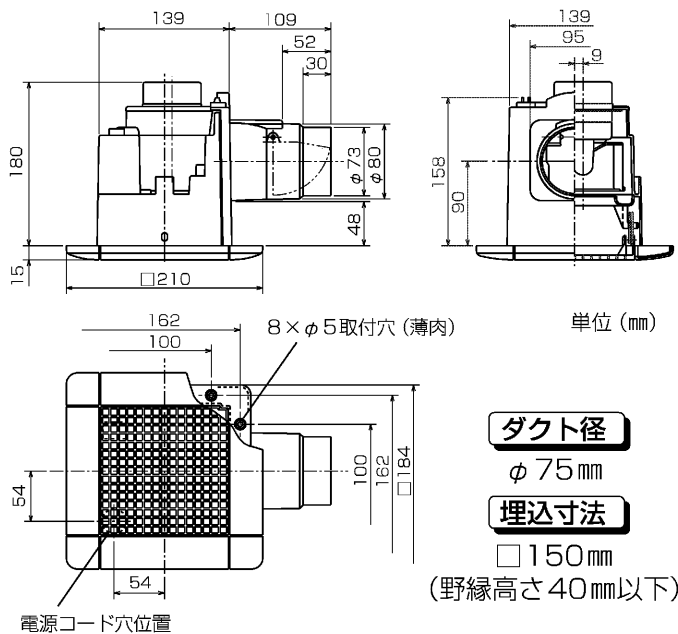


● しぼり

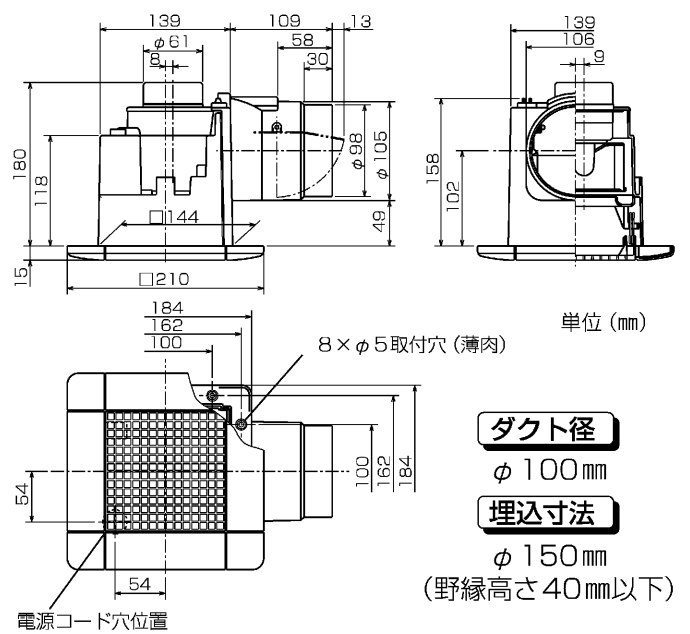


# 外形寸法図

## ■ VD-07ZC7



## ■ VD-08ZC7



# 付属部品

木ネジ.....5本



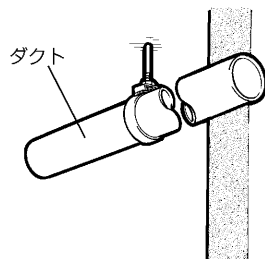
# 取付け方法

※天吊金具を使用される場合は、“天吊金具を使用する場合”をご覧ください。

## 1 ダクト配管

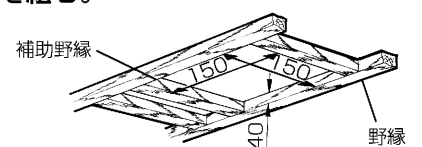
壁排気穴から本体のダクト接続口までダクト配管する。

- ダクトは本体に力が加わらないよう天井より吊る。



## 2 野縁工事

内寸が 150 mm、高さが 40 mm 以下になるよう天井の野縁と補助野縁で取付枠を組む。



### メモ

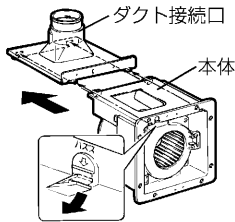
- 野縁高さを 40 mm 以上で取付けるとシャッター開閉不良、異常音の原因となります。

単位 (mm)

## 3 ダクト接続

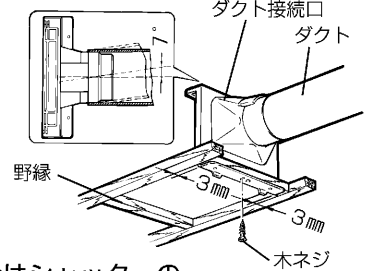
### ダクト接続口の取りはずし

- 本体内側のツメを矢印の方向に押えながらダクト接続口を下図のように本体から取りはずす。



### ダクト接続口の固定

- (1) ダクト接続口をダクトに差し込む。
  - (2) ダクト接続口のフランジ部を野縁に密着させて付属の木ネジ1本で野縁の中心に固定する。  
(両サイドに3mmほどのすき間があきます)
- 塩化ビニル管と接続する場合、ダクト方向の微調整が可能です。  
(全方向7°)



### お願い

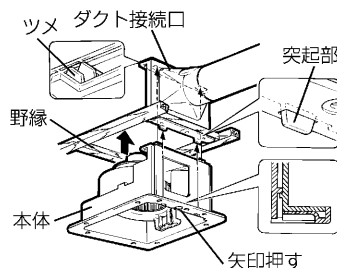
- ダクト接続を市販のネジなどで行う場合はシャッターの開閉に支障のないよう注意してください。

## 4 本体の取付け

### 本体の差し込み

- (1) 本体を野縁にそって差し込む。
- (2) ダクト接続口とのはめ込みは、本体上部のツメをダクト接続口の角穴に、下部はダクト接続口の突起部を本体下部の角穴にはめ込む。

- 本体フランジ部にある矢印付近を押すと「パチン」と音がしてはめ込まれます。



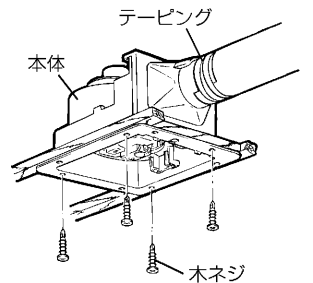
### お願い

- 羽根を持って本体の取付けを行わないでください。(本体に羽根があたり、異常音の発生や羽根破損の原因となります)

### 本体の固定

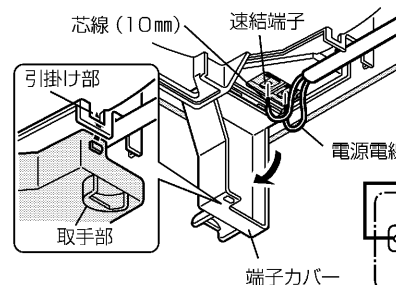
- (1) 本体がダクト接続口に密着していることを確認してから、付属の木ネジ(4本)で本体をすき間のないようにしっかり固定する。
- (2) 風漏れのないよう市販のアルミテープ等でダクト接続部をテーピングする。

- 取付穴はすきま防止のため、薄肉がついていますのでネジ締めの際、ネジ先端で薄肉部を突き破ってください。

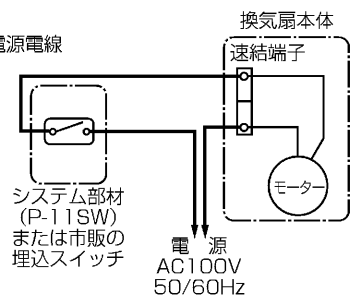


## 5 電気工事

1. 本体上部のゴムブッシュより電源電線(屋内配線 VVF ケーブルφ 1.6、φ 2)を通す。
2. 端子カバーの取手部に指を掛けて下に引いて端子カバーを開け、速結端子に皮むきした芯線を実際に奥まで差し込む。(結線図参照)
3. 速結端子に皮むきした芯線を実際に奥まで差し込む。(結線図参照)
4. 端子カバーを元通り取付ける。「パチン」と音がするまで押し込み、端子カバーが引掛け部に確実に固定されていることを確認する。

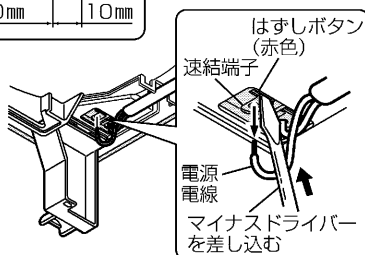
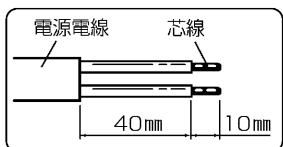


### ■結線図(太線部分を結線する)



### お願い

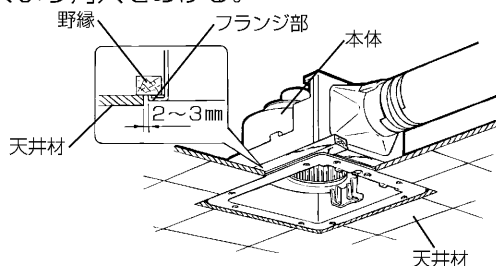
- 電線被ふくは10mm皮むきしてください。端子カバーに刻印されている皮むき寸法図に合わせて、皮むきすると便利です。(10mm以上むくと漏電の原因になります)
- より線を結線する場合は、棒状圧着端子(市販品)をより線に取付けてから速結端子に確実に差し込んでください。
- 電源電線は、接続部に力が加わらないよう本体付近で約150mmたるませてください。
- 端子カバーにて電源電線をはさまないよう端子カバーを取付けてください。
- 電源電線を速結端子よりはずす場合は、マイナスドライバーで速結端子のはずしボタン(赤色)を押しながら電源電線を引っ張ってはずしてください。



# 取付方法 つづき

## 6 天井材を張る

- (1) 天井材を張る。
- (2) 本体のフランジ部分と天井材とは必ず 2～3 mm のすき間があくよう角穴をあける。

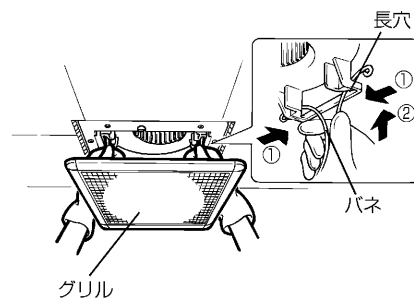


### お願い

- 天井材の厚さは 25 mm 以下で施工してください。  
(グリルが天井材に密着しない場合があります。)

## 7 グリルの取付け

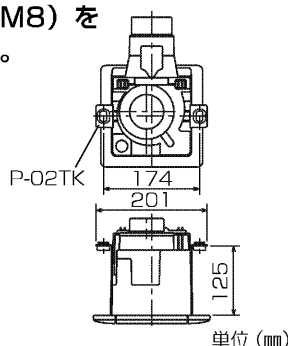
- (1) グリルの 2 つのパネを両手で持ち、長穴に差し込む。
- (2) 手を放し軽くグリルを押し上げ天井材に密着させる。



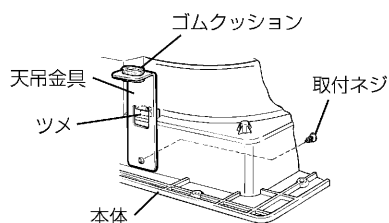
## 天吊金具を使用する場合

野縁に強度がない場合は天吊金具を使用して取付ける方法も兼用してください。

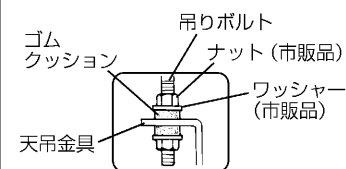
1 図の位置にあらかじめ市販の吊りボルト (M8) を埋め込む。



2 システム部材の天吊金具 (P-02TK) のツメを本体に引っ掛けて、内側から取付ネジで固定する。



3 本体が水平になるように天吊金具を吊りボルトに取付け、ナットがゆるまないようワッシャー・ナットで確実に固定する。



## 天井材の下に本体フランジを取付ける場合

### お願い

本体の取付けは天井材と本体フランジ部との間にすき間がないように取付けてください。

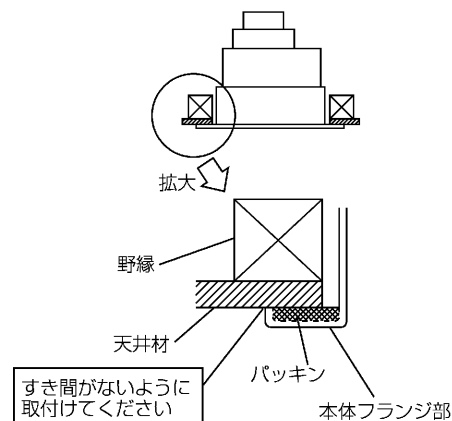
(天井材と本体フランジ部が密着しないと天井面とグリルの間にすき間が生じる場合があります)

#### ■パッキン材を使用する場合

- 天井材と本体フランジ部の間にパッキン材を使用する場合は薄いもの・軟らかいものを使用し、取付状態ですき間がないようにしてください。

#### ■補強板を使用する場合

- 天井面と本体フランジ部との間に補強板を入れる場合には、その部分の厚さが 1 mm 以下のものをご使用ください。



## 試運転

取付工事が終わりましたら次の確認をしてください。

1. コントロールスイッチにて正常な運転ができますか？
2. 振動・異常音はありませんか？